

協議会ニュース 98号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2005. 1



オオタカ
岩沙 雅代(尾張支部)

●特集 年頭の挨拶P2~3
会 長 中西 正	
副会長 鬼頭 弘	
・講座研修「動物の暮らしと愛知県の自然」植生管理研修会」	
レポート: 山田 博一P4~5
・寄稿文 金森 正臣P6
金森正臣氏略歴 石田 晴子P7
・観察会あれこれ 牧野 紀子P8
・Web ページ紹介 堀田 守P9
・理事会だよりP10
・事務局だよりP11
・編集部だより・行事予定 他P12

年頭の挨拶

照葉樹林からの視点

会長 中西 正

2004 年は釧路、宮崎と 2 回学会に参加しました。宮崎の植生学会では名古屋の柴田美子さんと共同研究『大森湿地の特性』を発表してきました。このような会に参加すると知的刺激があつていいものです。この機会に飢肥の植林地、ヤッコソウの天然記念物指定地、そして綾の照葉樹林を見てきました。

綾町は照葉樹林を売り出している珍しい町です。その中心は大吊橋でしょうか、勿論そこへも行ってきました。ただ、その周辺の森は二次林的な雰囲気です。原生林とはいえないと思いました。この奥にこそ照葉樹林の原生林がありました。宮崎大学の先生に案内されて、キャンプ場から歩いて 1 時間のその一帯はイチイガシ群落でした。高木層にはイチイガシ、コジイ、タブノキ、ヒメユズリハがあり、亜高木層にはイスノキ、コジイ、サカキ、低木層にタイミンタバナ、イヌガシ、イヌマキ、ヤブツバキなどが生えていました。台風の後で、小枝が落ち明るくなった森ですが照葉樹林の原生林の姿でした。地表にはヤマビルもたっぷりいました。

そこで聞いた解説は印象的でした。コジイはパイオニア植物で、ここではイチイガシやイスノキが極相というのです。愛知県では極相と考えるコジイがそこではパイオニアでしかないのです。私達は、愛知県は照葉樹林帯で、その中にあると思っています。しかし、考えてみればその北限に近い場所なわけです。北限の照葉樹林ではカシ類が単純になり、そこで極相になるのはシイということ。中心からはなれたところでは種の性質も変化するのでしょうか。

種群の進化の場合、その進化の中心地では種類数が多く、辺縁では少ないといえます。生態的な見方でもこれと同じ傾向が当てはまるようです。もしかしたら、協議会という組織にも当てはまるかもしれません。



それはさておき、私達はシイをないがしろにするわけには行きません。愛知県ではシイ林を極相林として理解しなければならないのです。ところで過去に私達が参加した『ブナ・カシ調査』はまとめられていませんでしたが、現在それをまとめており近いうちに印刷できそうです。これによって、愛知県のカシの様子が明らかになるでしょう。その結果(内容)を楽しみにして下さい。

後悔先に立たず

副会長 鬼頭 弘

1988年11月。この前年からいわゆるバブル経済が始まり、これに警鐘を鳴らすかのように国連環境計画が気候変動に関する政府間パネルを設置し、地球温暖化に警鐘を鳴らしました。10年後、やっと数値目標が設定された京都議定書が採択され、昨年11月になってロシアの参加が決まったのです。議定書採択から5年後にあたる来年2月16日に、京都議定書が発効することになりました。この6年間、京都会議で決めたことはどうなっていたのか。90年比で6%削減するよう努力しなかった付けが回って、試算では14%の削減をすることになっているそうです。温暖化の傾向は年ごとに顕在化し異常気象による被害が増大しています。この付けは子どもたちが払うことになるのです。バブルで得た利益はこれにより相殺されるどころか、著しいマイナスになると思われます。「後悔先に立たず」を肝に銘じて一年をおくりたいと思います。



コラム

知多自然観察会 稲生 和久



日本では昔から日常生活の風習の中に植物を多く取り入れてきましたが、お正月はその中でも特に多い時期ではないでしょうか。門松はマツとタケでできていますし、鏡餅の下にはシダのウラジロを敷き、正月明けの七草粥には大根とカブを除けば5種類の野草を入れます。また、床の間飾りにはマンリョウ（ヤブコウジ科）とセンリョウ（センリョウ科）がメインとなりますが、ヤブコウジ（ヤブコウジ科）を十両、アリドオシ（アカネ科）を一両として飾ります。どれも里山の植物として昔は普通にみられたものなことから、昔の人は身近な自然の中から新年を迎える準備をしてきたことが分かります。床の間飾りは、千両、万両有り通し（アリドオシ）と言って裕福になれるようにと願ったと以前本で読んだことがあります。私の財布の中にお金がないのは、このような風習を無視したからかなとちょっと考えた年の瀬です。

講座研修「愛知県の自然の状況－生き物を通して－」（第3回）

『動物の暮らしと愛知県の自然』 聴講要旨

（講師：前会長 大竹勝氏）

報告：尾張支部 山田博一

研修日時：11月23日（祝、火）

研修場所：名古屋市教育館会議室 参加者：14名

当日配布資料のレッドデータ掲載種を見ると、ほ乳類は、攪乱する立場なので、生態系で上位にありながら絶滅の度合いが大きい。モグラはヒミズ、コウベモグラばかりで、アズマモグラとミズラモグラは絶滅危惧種である。耕作されたので、硬いところに住んでいるアズマモグラが居なくなりコウベモグラばかりになってしまっている。

逆に、ニホンザル、カモシカは増えすぎて個体調節の必要がある。

アライグマが北海道で問題になっている。小さいうちはかわいい、大きくなると手に負えなくなるので逃がす、これは、生きているものは、殺したり処分したりすることは悪いことだとして、山に離す日本人の悪い癖。同じようにして、野イヌ・野ネコ・ハクビシン・ヌートリアが一斉に広がってしまった。アオマツムシの広がり方も似ている。

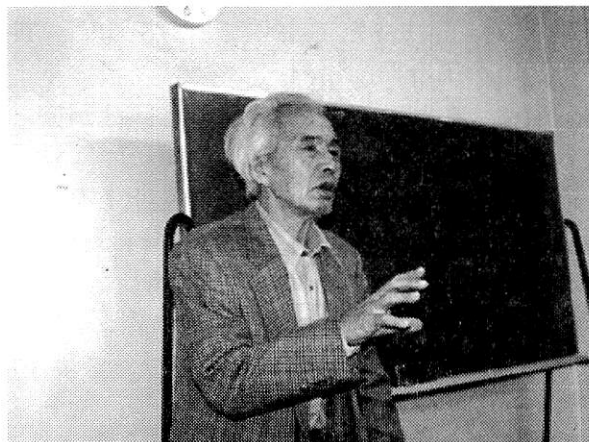
さらに、国内種だからいいだろうと、後の結果を見ないで離し、屋久島にタヌキが広がってしまった。

有害鳥獣である野ウサギ、ヌートリア、スズメ、カワラバトなど狩猟する側が識別できないので広がってしまった。犬山駅のケヤキにスズメが群がって異常にうるさいのは、里山が壊され、駅にはムクドリなどの外敵がいないので、駅に集まってきた。

サルが里に出るのは、植林のやりっぱなしで餌が確保できないに加え、ヒトが餌を与えたり、餌が容易に手に入る状況を作り出して、野生動物の家畜化が原因である。自然のものでなく、ヒトが食べる栄養価の高いものを食べると、野荒らしする個体群が増え、豊作物を荒らすことになる。イノシシやキジバトも同じように広がった。

クマが出るのも、自然とヒトの活動地域の緩衝地帯である、里山が管理されていないことによる。

昆虫でも、どこへ行ってもツマグロヒョウモンがでたり、昔は九州でしか見られなかった、ナガサキアゲハは90年で三重に、現在は静岡まで北上している。オオタカの生息範囲は、ドバトの範囲と一致する。ヘビ、カエルを餌とするサシバは、餌が無くなった場所からいなくなる。森だけ残すのはだめである。必ず昆虫・鳥などの動物と一緒にして良い状態で残すことが必要である。



自然は何らかのメッセージを送っている。しかし、ヒトはその場だけしか見ない。だから、目にしたことは記録を取るようになってもらいたい。そして、それを他の人に伝えてもらいたい。個人のデータとして残しておいても、その人が亡くなると、そのデータは消えてしまう。また、専門家にデータを提供する場合でも、必ずフィードバックしてもらわないと、その専門家が亡くなったときに死蔵物になり、永遠にわからなくなる。

自然のことすべて一人で調べるのは、不可能に近いので、データは何らかの形で残し伝えることが必要である。目にしたことは記録として残しておく、今は早急に成果が出ないかもしれないが、後の世代で必ず役に立つ。その点で、尾張自然観察会のホームページでやっている生物暦などの記録は大切である。

出現の記録はあるが、移動の記録は全くない。アキアカネ、ツマグロキチョウの移動、カワラケツメイの分布移動などはおもしろいと思う。

出現種の変化や絶滅、生物の移動は地球温暖化だけではない。いろいろな要素が絡んでいる。その中でも人間の関与が最も大きい。

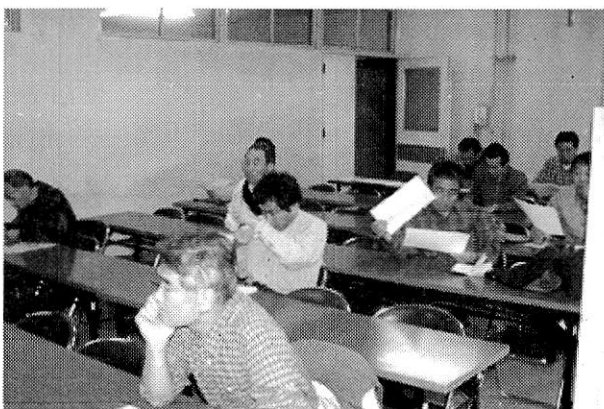
昔の猟師は、生活のために狩りをした。それは、自然と共存しながら調和を保って行った。しかし、今のハンターは、おもしろくて撃つ。

ウの場合、保護して増えすぎて困っている。増えたのは人間が関与したためである。人間が養殖したと言っても過言ではない。

人間は自然からたくさんのもを収奪している。そのため人類は滅びるかもしれない。それは、生物はゆっくりとした変化には対応できるが、急な変化には対応できない。植物が今までにない大量の実をつけるのは、枯れる前に起こる。

質問：愛知県の動物の専門家は？

両生類はほとんどいない。食虫類は愛知学院の子安和弘氏、霊長類は京都大学の霊長類研究所があるが、ニホンザルの研究発表より世界のサルに目が向いている。



尾張自然観察会担当より

大竹先生の言葉に励まされました。Web ページの報告や生物季節情報（生物暦）は、今すぐに成果は出ないかもしれないが、記録として残して、みんなで情報を共有できるデータベースにしておく、後世に必ず役に立つのを確信しました。尾張自然観察会の生物暦（生物季節情報）もがんばって行きたいと思います。今後も生物暦（生物季節情報）へどんどん情報を送ってください。

カンボジアの社会状況

協議会顧問 金森 正臣

いろいろな国々を見てきましたが、日本の様に経済格差の少ない国は、あまり見かけない様に思います。カンボジアも例外ではなく、かなりの経済格差があるようです。片側で、災害の時には村を救うほどの寄付をする財力のある政治家があるかと思えば、何もなく路上で生活している人たちが居ます。

ランクから見ると、

イ) 何も持っていないクラス：路上生活者等

ロ) ぎりぎり生活のための拠点を持っている、水上生活者もこの仲間？

ハ) それなりに立派な家を持ち生活が安定している：但し現金はあまり豊ではない

ニ) 家もあり車などを持っている：現金もそれなりに自由になる

ホ) 結構富豪に属するクラス：別荘を持っていたり、豊富な資金を持っていたりしてますます収入が増えて行くクラス：かなり悪いこともしている様です。



路上生活の子ども：靴磨きをしている

カンボジア社会では、独立気質があるというか自分勝手というかは別にして、他人のことはあまり気にしない風潮があります。パーティーなどで路上生活の子どもたちが空き缶を求めて走り回っていても、あまり気にする風はありません。追い出すこともしませんが、何かを恵ん

でやる風もないのです。路上生活者に対しても同じ様なことが見られます。町ですれ違っても全く無視です。路上生活者の方もあまり困った様子もなく、時間があれば路上の日陰でトランプによる賭け事をしています。夜なども、どこかの塀の上の明かりを頼りにその下に集まり、同じように賭け事です。シクロ（自転車タクシー）の運転手（多くは農村からの出稼ぎ労働者）も混じって楽しそうです。カンボジアは熱帯で寒くないこと、土地の生産性は高く飢え死にが少ないことに関係が深い様に思います。路上生活者も悲壮感はほとんどありません。

この様な状況ですと社会の問題も、あまり人々が気に掛けないのは当たり前かも知れません。

97・98号と協議会顧問の金森正臣先生の寄稿文を掲載いたしました。後先になりましたが、次頁に先生の略歴を名古屋支部の石田さんにまとめていただきました。

<金森正臣先生の略歴>

1940.3

長野県諏訪郡諏訪町
高木で生まれる。

小学校～高等学校

長野県小県郡大門村
(八ヶ岳の北山麓):人
生の原体験はこの時
期。



1955-58

長野県立丸子実業高等学校卒業。

1959-63

東京教育大学農学部総合農学科:山岳
部で様々な体験を積む。

1963-74

東京教育大学菅平高原実験所助手:自
然の中での体験、多くの人々と出会っ
た。

1975-78

大阪市立大学医学部助手:都会の生活
の異常さを体験した。

1978-83.3

愛知教育大学助教授:ヒトに対する理
解を深めた。

1983.4-2003.3

愛知教育大学教授

●専攻

動物生態学 野外教育 環境教育

●主な業績

・ネズミの個体群動態:ハタネズミ・
ヒメネズミ・アカネズミ・ヤチネズミ、
センサス法

・動物相の調査:菅平、日光・尾瀬国
立公園

・極相林におけるギャップ:沼田真先
生の応援を得て、ブナの極相にギャッ
プの提唱

・山菜の調理指導と本の出版:地元へ
の還元

・都市のネズミの研究:都市にはクマ
ネズミが多いこと、成長が早いことを
突き止めた。

・都市のネズミの調査法を確立した。

・科研で韓国の境界地帯を調査
(最初の国外調査)(1980)

・自然教室:子どもと自然との関係、
ヒトの進化、不登校児のキャンプ、ヒ
トの理解

・主な海外調査等:ネズミ調査(エジプ
トギザ県)、チンパンジーとネズミの調
査(タンザニア・ウガンダ)、JICA 専門
家(生物)として理数科教員養成改善計
画参加(カンボジア)

●主な著書

・群落の遷移とその機構(1977)朝倉書
店(共著)

・現代生物学大系(1985)中山書店(共
著)

・しなの動植物誌(1986)信濃毎日新聞
社(共著)

・日本の自然公園(1989)講談社(共著)、

・自然保護ハンドブック(J・W・プレ
イナード著)(1974)地人書館(共訳)

・「海上の森の詩」(共著)ものみやま自
然観察会編、

・「里山の生態学」(共著)名古屋大学出
版会 等

以上、金森正臣先生退官記念講演要旨集
「私の歩いてきた道」(2003. 2. 16)より
引用し、作成いたしました。

(名古屋支部 石田晴子)



紅葉時の滝頭公園

(田原市)

東三河支部 牧野 紀子

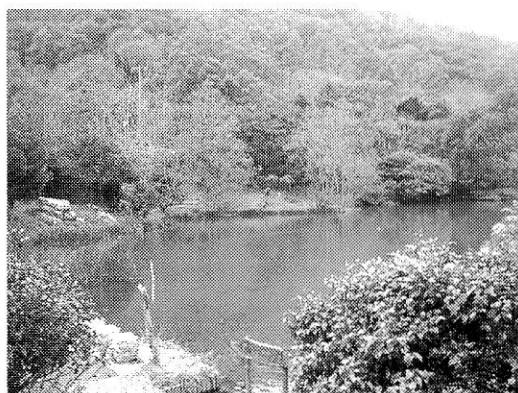
12月12日の午後、家族で田原市の滝頭公園まで出かけました。ちょうどこの日は、2004年の東三河自然観察会の定例観察会、稲荷山と滝頭公園周辺を歩く観察会の最終日であり、その後に行われる恒例の芋煮会がありました。

公園では、木々の紅葉・黄葉が見頃となっていました。芋煮会でお腹が一杯になった子どもたちがそれぞれに公園内の草原で、池で、思い思いに遊んだり、「水切り投げ」の方法を熱心に教えてくれたりしています。このようなゆったりとした光景を見るとほのぼのとしませうね。最近の子どもの遊び事情では、見られなくなって久しいのでしょうか？

ここ数年、指導員としての参加活動はほぼ休眠状態でいましたが、今年はこちらの定例観察会など観察会に幾度か訪れることが出来ました。稲荷山では、わずかな参加を通してながら、季節ごとに同じ場所でも変わりゆく山々の生き物の様子、田んぼに住む生き物たち、そして地元の自然愛好家「たらめ会」の方々の活動の様子を知ることが出来ました。一度限りの訪れや、通りすがりではその場の自然の魅力を良く知る機会はないかなことでしょう。そして、観察会で、指導員の方々それぞれの観察眼に触れることは、未だ途上の指導員である私にとって、刺激になり、学ぶところ

が多いです。一人気ままに楽しむことも好きですが、一人だけでは得難い発見がある観察会とはやはり良いものだな！と改めて思うことができました。

来年の定例観察会は、異なる場所で行われるそうですが、別の機会にでも、滝頭公園・稲荷山周辺での観察会が再度行われると良いな、と会員の一個人として思っています。



4月には、この滝頭公園内で桜祭りがあり、人でにぎわう中、毎年私は子どもを連れて訪れることになっています。お目当ては、ソメイヨシノでも団子でもなく、脇に密やかに群生する、セントウソウや、ヒメウズ、ジロボウエンゴサクたち。走り回る小さな相方を追いかけながら横目で眺め、その後近くの籐七原のシデコブシを訪れるというのがお決まりとなっているこのころです。

「観察会あれこれ」は、昨年1年間担当されました尾張支部の齋竹善行さんから、本号より東三河支部の牧野紀子さんにバトンタッチとなりました。お楽しみにしてください。(編集部)

名古屋支部（名古屋自然観察会）のホームページ紹介

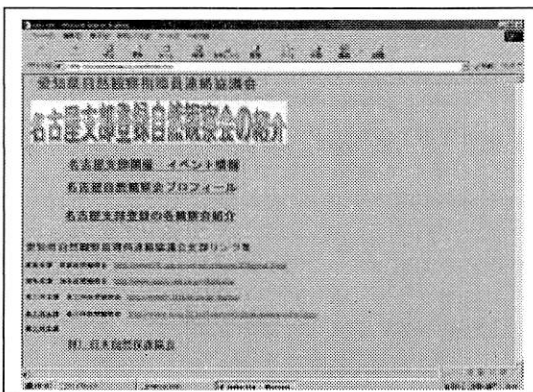
名古屋支部 堀田 守

2001 年より県指導員連絡協議会 20 周年記念事業を皮切りに、各支部において 20 周年事業が各地で開催され名古屋支部においても、20 周年記念事業を名古屋市農業文化園において開催しました。20 周年事業開催にあたり当日の配布資料として、名古屋支部登録指導員により自主適に開催されている観察会の紹介を各観察会リーダーが、集合場所・開催日・観察会特徴等をあらわす写真等の資料を持ち寄り、それを 1 冊の冊子にまとめ当日、各観察会 PR 資料として作成、配布を致しました。名古屋市内で行われる観察会の参加者の方々からは、一度だけの配布で死蔵させるのは、もったいないとか、何処へ行けば入手できるのかなどと問い合わせもあり、活用を考え直そうと議論がされる中（こんな頃から他支部のホームページが開設されていきました）支部役員会において、ホームページで紹介できないかとの意見もあり、2004 年 7 月に名古屋支部（名古屋自然観察会）として、みようみまねでそれを原稿としてホームページを作成、開設を致しました。

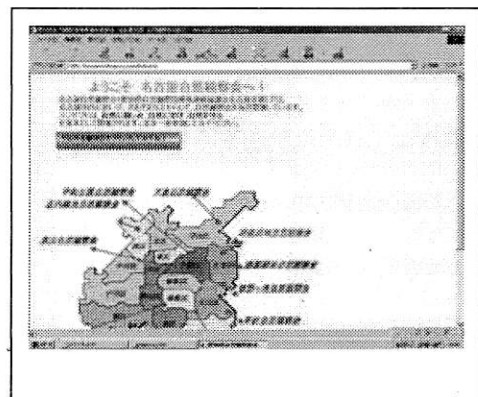
トップページ(写真左)では、日本自然保護協会へリンク、愛知県自然観察指導員連絡協議会に属する他支部とのリンク、名古屋支部主催事業のイベント紹介、名古屋支部登録の観察会開催場所等の紹介ページへ進むページ構成となっています。名古屋自然観察会各開催地紹介ページ(写真右)より、それぞれの観察会ホームページへリンクを張り、将来的には、それぞれの観察会から、最新情報の発信を考えています。その為には、名古屋支部登録の各観察会でホームページの立ち上げを独自で発信していただきホームページの更新ができるまでを目標として、名古屋支部として支援（ホームページ作成教室）も必要と感じています。名古屋支部（名古屋自然観察会）ホームページアドレスは、

http://cecile.gr.jp/nagoya_sizen/index.htm となっています。

又は、ウェブ検索で、『名古屋自然観察会』で検索して頂きますとヒットします。是非一度覗いて見て下さい。なおメーリング通信については、ウイルス等いろいろな点で問題が発生も考えられる為、現在は考えていませんのでご意見等につきましては、名古屋自然観察会プロフィール内に記載の支部長宅 FAX 番号宛にホームページ担当宛まで FAX でご連絡をお願いします。又、各支部リンクを張るにあたり、リンク了解の問い合わせが事後承諾となってしまうところもあり、各支部ホームページ管理者の方には、大変ご迷惑をおかけしました事をこのページをお借りして謝罪させていただきます。今後ともよろしくご指導をお願いいたします。



トップページ



支部開催地紹介ページ

■ 理事会報告



日時 2004.11.3

場所 なごやボランティア・NPO センター

出席者 石田 井城 今泉 大谷 鬼頭 近藤

齋竹 佐藤 滝田 中西 松尾 三田

降幡代理：南川 山田 脇田

議長：中西

記録：近藤

◆ 議題

0. 理事会に先立って報告と注意

朝日カルチャーセンターに協議会会員名で怪文書が届き、同センターより説明を求められた。怪文書に書かれた内容が事実無根であることを伝え、了解を得た。誰がどのような目的で今回の行動をおこしたか不明であるが、今後注意を払うこと。

1. 会員把握・名簿について確認事項

- ①指導員番号は会員名簿に記載しない（指導員番号は保険などの連絡時に必要となるため名簿管理担当者及び事務局で把握）
- ②所属支部名はわかる範囲で複数を記載
- ③市外局番は全ての市町村に記載
- ④再三の督促を行っている経緯から、今回理事会に諮った会員名簿（案）をもって作成を行い、協議会ニュース 2005 年 1 月号と共に全会員に送付

※ 次回理事会 12/23 の午後 1 時より有志にてコピーとホチキス留めを行う

- ⑤会員名簿に基づき印刷物の記載・ML 登録者を整理

その他：奥三河支部より支部費を 1,000 円と決定の報告

2. 助成金情報・申請(含・事業計画検討)

オールアイシン NPO 活動応援基金に 25 周年記念事業の助成申請を行う（担当：近藤）

3. 会計中間報告

- ①現在の試算では繰越金可能の状況。
- ②受託事業費 → 全予算のなかでやり繰りすることを確認。
- ③調査費 → 本年 2004 年度のブナ科の冊子作成費。全会員に配布か、希望者に配布か今後の検討を要する。

4. 「水源の森トラストの会」への賛同について

（財）日本自然保護協会には普及部名で賛同を得ているので保全部で認めるのはどうか、最終責任を取ることになるのは、会長なので会長一任でよいのではないかなど前回は引き続きさまざまな意見が交わされた。

最終的に「愛知県自然観察指導員連絡協議会有志」で賛同を確認。

また、総会などのはがきで保全部についての意見を募ってはどうかという提案がなされた。

5. 1 月の研修発表者について

- ①担当者より発表候補として数名のリストがある旨の報告。
- ②国有林・里山などさまざまな場の活動を紹介したかどうか。
- ③発表者募集を掲載した協議会ニュースが発行された直後なのでその反応をみてはどうか。

6. 「支部によって、支部事務局長の理事会参加が必要だと認められる支部は、支部事務局長を理事

に参加させる」（提案・山田）

理事会の席に限りがあること、連絡事項を各支部内のコミュニケーションツールとして

活用するなど対処をする。（協議会ニュースにも毎回速やかに内容を掲載中）

また理事会記録のメール転送も可能。

7. 来年度事業について

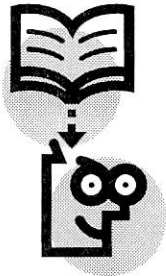
- ①25 周年記念事業：講演会・スタンプラリー（企画担当：堀田）
- ②協議会ニュース 100 号達成記念号
- ③研修（案）湿地・大型哺乳類など
- ④ふるさと親子自然観察会
- ⑤総会 3 月 21 日（月・振休）及び講演会（企画担当：堀田・松尾）
- ⑥指導員講習会開催（主催愛知県）岡崎市桑谷山荘を会場に 9 月又は 10 月の 3 連休を設定予定

■ 会員名簿

会員の皆様に、会員名簿を同封します。会員相互の連絡・情報交換・交流などに有効に活用ください。(2004.12 現在作成)

蛇足ながら名簿管理につきましては、くれぐれも注意の上で取り扱いをお願いします。

尚、会員規約で会費納入期限が定められたことにより、会員資格の有無についての検討で名簿作成が遅れましたことをお詫びします。



■ 25 周年記念イベント計画 & 助成申請

2005 年、愛知県自然観察指導員連絡協議会は 25 周年を迎えます。20 周年記念事業を終え、5 年経過するのかなと思うと感慨深いものがあります。

さて、理事会報告 (p10 参照) の記録にありますように、さまざまな案を検討しています。

みなさんの声を反映させ、良い企画を立て 25 周年にふさわしい内容の事業にしたいと思いますので、こんな企画はどうか、あの人の講演を聞きたいなどの提案を事務局までどうぞ！

また、記念事業となると資金不足は否めません。そこで 2004 年 11 月末に助成申請をしました。2005 年 1 月には、ヒヤリング予定です。春には良いお知らせをしたいと思っていますので、乞うご期待！

■ 新入会員のお知らせ

下記の方が新たに会員として入会されましたのでお知らせします。

- ・金井 康昌さん (名古屋支部)

2004 年秋、静岡県指導員講習会にて受講。名古屋市在住。

- ・佐藤 勝彦さん (奥三河支部)

奥三河支部では以前から活動協力も…。新城市在住。

- ・高橋 匡司さん (尾張支部)

尾張支部が春日井少年自然の家と協働した講座にも参加。春日井市在住。

◆新会員の活躍に期待します！

■ 連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は速やかにご連絡ください。

また最近住所表示変更も多くなっています。表示変更のみならず、郵便番号の変更も忘れないよう手続きください。

現在「協議会ニュース」発送は、基本的に宅配便を利用しています。しかし、個別対応の連絡は郵便になることも、また会員同士の連絡・意見交換などは郵便になると思われますので、忘れないように手続きください。(以上、事務局：近藤)

■ 募集！原稿・写真・イラスト

協議会ニュースでは会員のみなさんの参加をお待ちしております。

- ・原稿、イラスト、写真等…

「会員のページ」の原稿

「個人の WEB ページ紹介」の原稿

「観察会の報告」の原稿・写真

「観察会のネタ披露」の原稿

お待ちしております。

◆投稿原稿・写真その他作品の掲載につきましては、編集部に一任をお願いいたします。(連絡先：最終ページ編集部 苅川)

研修会予定

研修	日時	会場
協議会主催 研修会 「森づくりを通じた実践活動報告&意見交換会」	1/30(日) 14:00～16:30	なごやボランティア・NPOセンター 研修室(地下鉄「伏見」下車 徒歩6分)

*参加者の申し込み方法 支部でとりまとめ大谷まで申し込み

連絡・問合先 kokokei@nifty.com 0572-23-6907

*発表者の方は、グループ名、人数、活動内容、課題などを10分程度報告して頂きます。
書面の原稿は、1月15日までにA4 1枚程度にまとめて大谷まで送付ください。

平成17年度総会予告

詳細は次号99号(3月発行)でお知らせしますので、日程調整をお願いします。

◆場所：未定 (予約が3ヵ月前からのため)

◆日時：3月21日(月・祝日)

総会：午後1時～

講演会：午後3時30分～

茶話会：午後4時30分～

後片付け終了：午後5時30分

◆講演会講師：中村 俊彦氏 千葉県立中央博物館

9月に実施されたフォローアップ研修(愛知県主催)で、豊富な資料と丁寧な話が好評だった中村俊彦氏です。前回都合で受講できなかったは是非総会へどうぞ！

編集後記

表紙は今号より1年間(6回)、尾張支部の岩沙雅代さんのイラスト(絵手紙)を掲載します。岩沙さんは、日進市在住で「日進岩藤川自然観察会」のスタッフであり、「協議会ニュース」発送担当として活躍中です。

92～97号まで1年間、三河の四季折々の植物・風景写真をご提供いただきました、西三河支部の近藤守さん、有難うございました。(苅川)

編集スタッフ

稲生 和久、岩沙 雅代、近藤 記巳子、
齋竹 善行、古川 俊江、苅川 真弓、
松尾 初、横井 邦子

◎みなさまのご意見・ご感想など原稿をお寄せください。

尚、原稿は内容を変えない程度に加筆・修正することがあります。あらかじめご了承下さい。

「協議会ニュース」に関する宛先(編集部)
〒445-0863 西尾市葵町4-4 苅川 真弓

愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 愛知県名古屋南区鳥栖2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子 Tel/Fax 052-822-7460